

Wallis の公式の応用

Wallis の公式を証明する中で得られた式を利用して、 $\int_0^{\infty} e^{-x^2} dx = \frac{\sqrt{\pi}}{2}$ という積分結果を導きます。

この積分に含まれる ∞ の意味は $\lim_{b \rightarrow \infty} \int_0^b f(x) dx$ という意味です。

この積分に表れる関数 $f(x) = e^{-x^2}$ は、その原始関数を「初等的な関数では表せない」ことが知られていますので、この結果は深い結果なのです。

Wallis の公式を導くのに利用した式をここにまた用意しておきます。

$S_n = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^n x dx$ ($n=0,1,2,3,\dots$) に対し、 n が奇数ならば $S_n = \frac{n-1}{n} \cdot \frac{n-3}{n-2} \cdots \frac{2}{3} \cdot 1$ でした。

すなわち、 $n=2m+1$ として $S_{2m+1} = \frac{2m}{2m+1} \cdot \frac{2m-2}{2m-1} \cdots \frac{2}{3}$ …① が成り立ちます。

また、Wallis の公式を導く過程で $\lim_{m \rightarrow \infty} \frac{2 \cdot 4 \cdots 2m}{3 \cdot 5 \cdots (2m-1) \cdot \sqrt{2m+1}} = \sqrt{\frac{\pi}{2}}$ …② を得ました。

さて、①と②より $\lim_{m \rightarrow \infty} \sqrt{2m+1} S_{2m+1} = \sqrt{\frac{\pi}{2}}$ であり、 $\lim_{m \rightarrow \infty} \sqrt{m} S_{2m+1} = \frac{\sqrt{\pi}}{2}$ … (*) となります。

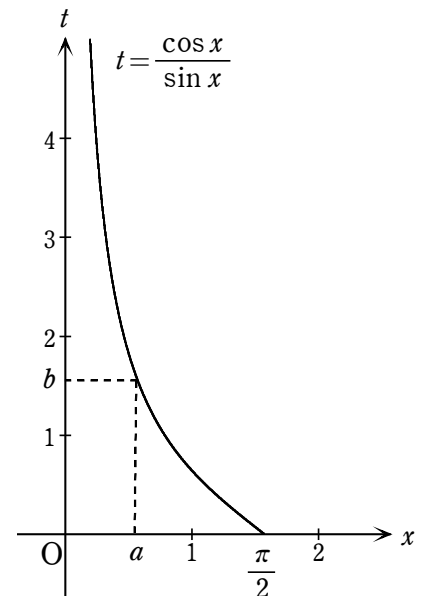
$$(\because \lim_{m \rightarrow \infty} \frac{\sqrt{2m+1}}{\sqrt{2}} = \lim_{m \rightarrow \infty} \sqrt{m})$$

ここでまず、積分 $\int_0^1 (1-t^2)^m dt$ を $t = \cos x$ と置換して積分すると

$$\begin{aligned} \int_0^1 (1-t^2)^m dt &= \int_{\frac{\pi}{2}}^0 (1-\cos^2 x)^m (-\sin x) dx \\ &= \int_{\frac{\pi}{2}}^0 (-\sin^{2m+1} x) dx \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{2m+1} x dx = S_{2m+1} \cdots \textcircled{3} \text{ となる。} \end{aligned}$$

また、積分 $\lim_{b \rightarrow \infty} \int_0^b \frac{1}{(1+t^2)^m} dt$ を $t = \frac{\cos x}{\sin x}$ と置換して積分すると

$$\begin{aligned} \lim_{b \rightarrow \infty} \int_0^b \frac{1}{(1+t^2)^m} dt &= \lim_{a \rightarrow 0} \int_{\frac{\pi}{2}}^a \frac{1}{\left\{ 1 + \left(\frac{\cos x}{\sin x} \right)^2 \right\}^m} \left(\frac{-1}{\sin^2 x} \right) dx \\ &= \lim_{a \rightarrow 0} \int_{\frac{\pi}{2}}^a \left(\frac{\sin^2 x}{\sin^2 x + \cos^2 x} \right)^m \left(\frac{-1}{\sin^2 x} \right) dx \end{aligned}$$



$$= \lim_{a \rightarrow 0} \int_a^{\frac{\pi}{2}} \sin^{2m-2} x dx$$

よって $\int_0^{\infty} \frac{1}{(1+t^2)^m} dt = S_{2m-2}$ …④ となることがわかる。

さて次に、 $e^x \geq 1+x$ …⑤ (等号成立は $x=0$ のとき) を利用します。

⑤において $x=-t^2$ とすれば $1-t^2 \leq e^{-t^2}$ (等号成立は $t=0$ のとき) となり、 $0 \leq t \leq 1$ においては $1-t^2 \geq 0$

であるから、 $(1-t^2)^m \leq (e^{-t^2})^m = e^{-mt^2}$ ($0 \leq t \leq 1$) が成り立ち、これより

$$\int_0^1 (1-t^2)^m dt < \int_0^1 e^{-mt^2} dt < \int_0^{\infty} e^{-mt^2} dt \quad \dots \textcircled{6}$$

また、⑤において $x=t^2$ とすれば $e^{t^2} \geq 1+t^2$ となり $e^{-t^2} \leq \frac{1}{1+t^2}$

したがって $e^{-mt^2} \leq \frac{1}{(1+t^2)^m}$ となるので、 $\int_0^{\infty} e^{-mt^2} dt < \int_0^{\infty} \frac{1}{(1+t^2)^m} dt$ …⑦ となります。

③, ④, ⑥, ⑦より $S_{2m+1} = \int_0^1 (1-t^2)^m dt < \int_0^{\infty} e^{-mt^2} dt < \int_0^{\infty} \frac{1}{(1+t^2)^m} dt = S_{2m-2}$ となります。

よって $S_{2m+1} < \int_0^{\infty} e^{-mt^2} dt < S_{2m-2}$ が得られ、 \sqrt{m} を辺々にかけて

$$\sqrt{m} S_{2m+1} < \sqrt{m} \int_0^{\infty} e^{-mt^2} dt < \sqrt{m} S_{2m-2} \quad \dots \textcircled{8}$$

ここで、⑧の真ん中の式は $\sqrt{mt} = x$ とおくことで $\int_0^{\infty} e^{-x^2} dx$ になり、

$$\textcircled{8} \text{の右辺の式について } \sqrt{m} S_{2m-2} = \sqrt{m} \cdot \frac{2m}{2m-1} S_{2m} = \frac{2m}{2m-1} \cdot \frac{S_{2m}}{S_{2m+1}} \cdot \sqrt{m} S_{2m+1} \text{ と変形でき、}$$

$$(*) \text{より } \lim_{m \rightarrow \infty} \sqrt{m} S_{2m-2} = \lim_{m \rightarrow \infty} \frac{2m}{2m-1} \cdot \frac{S_{2m}}{S_{2m+1}} \cdot \sqrt{m} S_{2m+1} = \frac{\sqrt{\pi}}{2} \text{ であるから}$$

はさみうちの原理により $\int_0^{\infty} e^{-x^2} dx = \frac{\sqrt{\pi}}{2}$ が得られます。

最後に、積分 $\int_0^{\infty} e^{-x^2} dx = \frac{\sqrt{\pi}}{2}$ の表すものを確認しておきます。

関数 e^{-x^2} は偶関数なので、 $\int_{-\infty}^{\infty} e^{-x^2} dx = \sqrt{\pi}$ となることがすぐにわかると思いますが、積分 $\int_{-\infty}^{\infty} e^{-x^2} dx$ は

関数 $y = e^{-x^2}$ のグラフと x 軸の間の面積を表すことになります。この部分の面積が $\sqrt{\pi}$ になるわけです。

(x 軸は漸近線)

